

中野市まち・ひと・しごと創生総合戦略 2年目評価(案)

政策情報課

○達成、順調あるいは概ね順調である割合は62.7%(32/51項目)

評価区分	項目数	
達成	8	
順調	17	
概ね順調	7	
効果が現れていない	5	
努力を要する	13	
代替指標によるもの	1	(基本目標3:農業付加価値額)
合計	51	

○基本目標の進捗状況

項目		基準数値	目標数値	実績
基本目標1	合計特殊出生率	1.65 (H26)	1.60	1.58(H27) 順調
	婚姻届出件数	561件 (H26)	590件	553件 順調
基本目標2	転入者数	1,277人 (H26)	1,330人	1,246人 順調
	住み良いと感じる市民の割合	74.8% (H27)	85.0%以上	77.7% 順調
基本目標3	市内事業所就業者数	17,938人 (H24)	17,316人	18,232人(H28速報値) 達成
	農業付加価値額	2,204百万円 (H24)	2,215百万円	3,620千円 ※ (H28農業所得)
基本目標4	健康寿命(男性)	79.75歳 (H25)	平均寿命の 増加分を上回る 健康寿命の増加	80.22歳(H26) 概ね順調
	健康寿命(女性)	84.78歳 (H25)		84.15歳(H26) 達成
	小さな拠点の形成	—	1か所(累計)	効果が 現れていない

※経済センサスが5年に1度の調査であり、実績値が出ていないため、代替指標により数値を記載しています

中野市まち・ひと・しごと創生総合戦略 1年目評価

政策情報課

○既に達成、順調あるいは概ね順調な項目は5割弱(49.0%、25/51項目)

評価区分	項目数
達成	4
順調	14
概ね順調	7
効果が現れていない	6
努力を要する	15
実績値なし	5
合計	51

○基本目標の進捗状況

	項目	基準数値	目標数値	実績
基本目標1	合計特殊出生率	1.65 (H26)	1.60	—※
	婚姻届出件数	561件 (H26)	590件	553件 順調
基本目標2	転入者数	1,277人 (H26)	1,330人	1,295人 順調
	住み良いと感じる市民の割合	74.8% (H27)	85.0%以上	74.8% 概ね順調
基本目標3	市内事業所就業者数	17,938人 (H24)	17,316人	—※
	農業付加価値額	2,204百万円 (H24)	2,215百万円	—※
基本目標4	健康寿命(男性)	79.75歳 (H25)	平均寿命の 増加分を上回る 健康寿命の増加	—※
	健康寿命(女性)	84.78歳 (H25)		—※
	小さな拠点の形成	—	1か所(累計)	効果が 現れていない

※H27の数値が現時点で把握できない項目

【基本目標1】子育て・子育て安心戦略 ～自然減の抑制～

■基本目標

項目・指標等	基準数値概要				H31 目標数値	測定可能 頻度	H28				課題または達成できない原因	今後の取組	指標の適否	
	単位	基準数値	基準年(年度)	年/年度			実績値	達成率	進捗率	進捗状況				成果
合計特殊出生率	-	1.65	26	年	1.60	毎年12月頃	1.58 (H27)	98.8	-	順調	・近年ほぼ横ばい状態である。	・結婚から子育てまでの戦略が、未だ成果として現れていない。	・切れ目のない結婚、妊娠、出産、子育て支援施策の充実により、健やかに産み育てる環境づくりを推進する。	適
婚姻届出件数	件	561	26	年度	590	毎月	553	93.7	-	順調	・平成27年度と同程度の件数を維持できた。		・平成29年度よりめぐりあいセッティング事業補助金の交付を通じ、出会いの場の機会を増やす。	適

■重要業績評価指標 (KPI)

項目・指標等	基準数値概要				H31 目標数値	測定可能 頻度	H28				課題または達成できない原因	今後の取組	指標の適否	
	単位	基準数値	基準年(年度)	年/年度			実績値	達成率	進捗率	進捗状況				成果
婚活イベント開催数	回	5	26	年度	10	毎月	9	90.0	-	順調	・目標値に近い進捗状況である。		・平成29年度よりめぐりあいセッティング事業補助金の交付を通じ、出会いの場の創出を図る。 ・中野市消防団では、毎年度1回結婚支援事業として、婚活イベントを開催し婚姻数の増加を図る。	適
出生数	人	340	26	年	340	毎月	298	87.6	-	概ね順調	・減少傾向にある。	・出生に関わる15歳～49歳の女子人口が減少していることが原因の一つと思われる。 (H23からH27までに666人(7.6%)減)	・切れ目のない結婚、妊娠、出産、子育て支援施策の充実により、健やかに産み育てる環境づくりの実現を図る。	適
妊婦一般健康診査受診率	%	99.1	26	年度	100.0	毎年6月頃	99.2	99.2	-	順調	・妊婦健診票交付時に妊婦健診の早期受診及び県外で受診した妊婦健診の市負担金の請求手続きを速やかに行うよう勧奨に努めた。	・県外で妊婦健診を受けた者の把握が遅れる。	・受診票交付時に早期の受診勧奨と県外で受診した妊婦健診市負担金の早期請求手続きを促す。	適
15歳以下の子がいる世帯の転入世帯数	世帯	105	26	年度	110	毎月	106	96.4	-	順調	・平成27年度と同程度の件数を維持できた。		・子育て支援施策の推進を図り、子育て家庭にとって魅力のあるまちづくりを進める。	適
地域行事に参加している児童の割合(小学6年生)	%	91.9	26	年度	維持・向上	毎年11月頃	90.4	98.4	-	順調	・平成27年度89.3%より向上し、概ね達成できた。		・児童の健全育成に資する地域行事・活動への参加を促す。	適
学校支援ボランティア数 (コミュニティー・スクール指定校数(小学校))	人 (校)	319 (0)	29 (26)	年度	350 (2)	年度末	0	0.0	-	効果が現れていない	・信州型コミュニティスクール運営委員会を全小中学校に設置するため準備を進めた。	・準備段階にあつたため。	・平成29年度から全小中学校で運営委員会を設置し、定期的に運営委員会を開催する。 ・平成29年4月からコーディネーターとして指導主事を配置した。	否

項目・指標等		基準数値概要				H31 目標数値	測定可能 頻度	H28					課題または達成できない原因	今後の取組	指標の適否
		単位	基準数値	基準年(年度)	年/年度			実績値	達成率	進捗率	進捗状況	成果			
外国語指導助手(ALT)配置人数	小学校	人	0	26	年度	2	年度当初	2	100.0	-	達成	・英語力の向上を推進するためALTを2人配置した。	・ALTを有効活用し、外国語教育の充実を図る。	適	
	中学校	人	4	26	年度	4	年度当初	4	100.0	-	達成	・ALT4人を各中学校に配置することにより、英語力(話す力、聞く力)の向上に寄与した。	・英語によるコミュニケーション力の育成を図る。	適	
将来の夢・目標を持っている児童・生徒の割合	小学6年生	%	86.1	26	年度	90以上	毎年11月頃	86.9	96.6	-	順調	・夢の教室(小5)を実施し、各分野で活躍する人と直接触れ合うことができた。	・児童が自己の将来の進路について考える契機となるよう各種事業を継続実施する。	適	
	中学3年生	%	70.1	26	年度	75以上	毎年11月頃	71.0	94.7	-	順調	・jobセミナー(中1)、職場体験(中2)を実施し、各分野の仕組みなどに直接触れることができた。	・生徒が自己の将来の進路について考える契機となるよう各種事業を継続実施する。	適	

【基本目標2】「故郷」のふるさとに住まう人口定着戦略 ～社会増の転換～

■基本目標

項目・指標等	基準数値概要				H31 目標数値	測定可能 頻度	H28				課題または達成できない原因	今後の取組	指標の適否
	単位	基準数値	基準年(年度)	年/年度			実績値	達成率	進捗率	進捗状況			
転入者数	人	1,277	26	年	1,330	毎月	1,246	93.7	-	順調	・社会増への転換を目指して、各種施策を総合的に推進した。 ・転入者が減少し、転出超過の状態が続いている。特に若年層の流出超過が課題である。	・大学等への進学に伴う転出は今後も続く見込まれるため、Uターンの促進を図るとともに、本市の強みを活かした新規就農支援など、引き続き、就労環境の充実等により移住者を積極的に呼び込む施策を展開する。	適
住みよいと感じる市民の割合	%	74.8	27	年度	85以上	毎年10月頃	77.7	91.4	-	順調	・前年度より数値が向上した。 ・年代による差はそれほどないが、居住地区による数値のばらつきが見られる。	・住みよさを感じるには多様な要素が関係するが、定住意欲の向上につなげるため、シビックプライドの醸成を図る情報発信に取り組む。	適

■重要業績評価指標(KPI)

項目・指標等	基準数値概要				H31 目標数値	測定可能 頻度	H28				課題または達成できない原因	今後の取組	指標の適否
	単位	基準数値	基準年(年度)	年/年度			実績値	達成率	進捗率	進捗状況			
地域ブランド調査認知度全国ランキング	位	842	26	年度	500	毎年10月頃	807	62.0	-	努力を要する	・観光宣伝を行っているが認知度向上に結び付いていない。 ・全国的に認知度の高いツールを活用した観光宣伝を行う必要がある。 ・製品のブランド化には時間がかかるため、長期的取組が必要である。	・近隣市町村と連携し、認知度の向上を図る。 ・食の大使等を活用し、情報発信を行う。 ・全国的に認知度の高いアウトドアイベント(SEA TO SUMMIT)を活用した観光宣伝を行い、認知度向上を図る。	適
空き家バンク登録物件への移住世帯数	世帯	-	-	年度	5	毎月	0	0.0	0.0	努力を要する	・移住相談会参加者の市内移住実績はあるが、空き家バンク登録物件の利用はなかった。 ・空き家バンク事業の周知と登録物件の掘り起こしが必要である。	・引き続き、広報誌やホームページにより情報発信を行う。 ・首都圏等での移住セミナー相談会に参加する。	適
CCRC整備区域数	区域	-	-	年度	1	年度末	-	-	-	効果が現れていない	・情報収集を行った。 ・関係団体等と連携した推進組織を立ち上げる必要がある。	・本市の実情に合った整備のあり方について、先行事例等を参考に政策研究所で研究する。	適
新規就農者数	人	25	26	年度	120 ※1	毎年7月頃	40 ※2	33.3	33.3	概ね順調	・平成28年度の新規就農者数は25人であり、平成27年度の15人を上回ることができた。 ・就農希望者の相談内容が個々に異なるため、柔軟な対応が必要である。	・北信農業改良普及センター、各JA等と連携するとともに、各種就農相談会場に積極的に参加する。 ・地域おこし協力隊を募集し、新規就農を促進する。	適

項目・指標等	基準数値概要				H31 目標数値	測定可能 頻度	H28					課題または達成できない原因	今後の取組	指標の適否
	単位	基準数値	基準年(年度)	年/年度			実績値	達成率	進捗率	進捗状況	成果			
市制度活用による住宅取得者数	世帯	-	-	年度	2	毎月	-	-	-	効果が 現れていない	・成果は現れていない。	・新たな住宅取得制度の構築については、単なる個人資産への補助とならない制度などの課題が多い。	・土地開発公社で販売している南沖団地3区画を中心に若者(30歳代)を考慮しながら情報発信を行う。地元豊田地域への発信、次いで長野市方面へ、販売価格の改定や交通の利便性が向上した旨の発信を行う。 ・先進地視察及び事例の研究をする。	適
30歳代の転入者数	人	279	26	年度	299	毎月	329	110.0	-	達成	・目標は達成された。	・移住者の希望する条件にあった環境整備が必要である。	・引き続き、広報誌、ホームページ、SNSにより情報発信を行う。 ・原因分析のため、転入者にアンケートを実施する。	適
市民手づくりコンサート開催回数	回	9	26	年度	12	毎月	5	41.7	-	努力を要する	・開催数5回であり、目標の半数に届かなかった。	・年度によって増減があり、開催する市民グループが固定化されてきている。 ・事業の趣旨がわかりづらい。	・市内音楽団体、保育園、幼稚園及び学校へチラシを配布するなど、広報活動を一層推進し、事業の趣旨の周知を図る。	適
体育施設延べ使用人数	人	245,614	26	年度	290,000	毎月	239,566	82.6	-	概ね順調	・改修により使用できない施設があったため、延べ使用人数は平成27年度(252,839人)より下回ったが、他の施設はほぼ昨年並みに使用された。	・各種大会の参加人数によって左右される。	・各種大会への参加について周知方法を検討する。	適
中野陣屋県庁記念館、博物館の利用者数	人	49,209	26	年度	50,000	毎月	47,262	94.5	-	順調	・平成28年度の入館者数は、陣屋県庁記念館が、37,224人、博物館は10,038人、合計47,262人である。 ・博物館の入館者の利便性を考慮し、和式トイレの一部を洋式化したが入館者数は平成27年度(10,613人)をやや下回った。		・中野陣屋県庁記念館のカフェメニューが充実するよう働きかける。 ・中野市商店会連合会が実施するワンコインセールに参加する。 ・博物館の各企画をより充実させるとともに、広報誌に挟み込む「博物館だより」を直近の情報に絞り込み、発行回数を増やす。	適

※1 H27～31累計 ※2 H27～28累計

【基本目標3】雇用創出と「信州なかの」ブランドをいかした産業振興戦略 ～労働と基幹産業の安定～

■基本目標

項目・指標等	基準数値概要				H31 目標数値	測定可能 頻度	H28					課題または達成できない原因	今後の取組	指標の適否
	単位	基準数値	基準年(年度)	年/年度			実績値	達成率	進捗率	進捗状況	成果			
市内事業所就業者数	人	17,938	24	年	17,316	5年毎	18,232 (H28速報値)	105.3	-	達成	・経済センサスの速報値は18,232人である。	・事業所数が減少傾向であり、創業支援を充実する必要がある。	・全国的にも高い水準にある女性と高齢者の就業率の維持向上を図るため、本市の強みを活かした産業振興策を展開する。	適
農業付加価値額	百万円	2,204	24	年	2,215	5年毎	(H28農業所得実績値) 3,620千円	-	-	-	・経済センサスが5年に1度の調査のため、農業付加価値額の実績値は出ていない。	・農業者の高齢化、担い手不足が課題である。	・信州中野ブランド認知度の向上のためにイベント等へ出店をする。 ・6次産業化事業化、新技術確立への支援を行う。	適

■重要業績評価指標(KPI)

項目・指標等	基準数値概要				H31 目標数値	測定可能 頻度	H28					課題または達成できない原因	今後の取組	指標の適否	
	単位	基準数値	基準年(年度)	年/年度			実績値	達成率	進捗率	進捗状況	成果				
イベントの開催及び出展回数	回	13	26	年度	30	毎月	56	186.7	-	達成	・行政主体のイベント出展から生産者又は事業者が自主的かつ積極的にイベント参加するための組織が形成できた。	・生産者及び事業者との情報共有を図る。	適		
6次産業化事業計画認定件数	件	5	26	年度	7	毎月	5	71.4	-	努力を要する	・現時点で新規認定事例がないが、国へ1件申請中である。	・認定のメリットが限定されている。 ・計画作成に手間がかかる。	・農業者に対し認定のメリットの広報を行う。	適	
新技術確立件数	件	7	22～26累計	年度	15 ※1	年度末	4 ※2	26.7	26.7	努力を要する	・新技術を導入するにあたり、充実した農業用機械・設備、または技術を習得することができた。	・新技術であることの判断が難しい。 ・新技術の導入を検討する者が少ない。	・市内農協と連携し、農業者に対し新技術導入への意欲を喚起する。	適	
遊休荒廃農地面積	ha	569 (456)	28 (26)	年度	566 (451)	年度末	569	79.3	-	努力を要する	・平成28年度では遊休荒廃農地対策事業補助金の取組みで58,597㎡農地再生となった。 ・平成28年度から制度を拡充し、担い手に対して補助金額を増額した。	・農業委員会の農地全筆調査に基づき遊休荒廃農地が増加した。よって、H31目標値を566haに修正したい。	・農業委員、農地利用最適化推進委員と協力し、遊休荒廃農地の解消を図っていく。 ・農福連携推進事業等により農地を再生する。	目標数値の変更	
歩行者通行量(市街地10か所)	日曜	人	1,659	26	年	1,744	毎年10月頃	1,257	72.1	-	努力を要する	・ワンコインセールなどまちの商店の魅力を体験するイベントなど実施したが、通行量の増加につながっていない。	・商店街活性化、空き店舗対策が成果として出ていない。	・平成29年度、中野TMOが主催でまちづくりセミナーを開催する。	適
	平日	人	3,283	26	年	3,450	毎年10月頃	3,483	101.0	-	達成	・目標値を達成した。	・調査地点によっては減少しているところもあり、中心市街地全体でより一層の取組を行っていく必要がある。	・有識者に商店街を歩いてもらい、改善策を検討する。	適

項目・指標等	基準数値概要				H31 目標数値	測定可能 頻度	H28				課題または達成できない原因	今後の取組	指標の適否	
	単位	基準数値	基準年(年度)	年/年度			実績値	達成率	進捗率	進捗状況				成果
特定専門家セミナー開催数	回	-	-	年度	4	毎月	1	25.0	-	努力を要する	・中小企業診断士による創業セミナー、創業塾を開催し、市内外から延92人の参加があった。2名の創業があった。フォローアップセミナーを開催した(1回)。 ・セミナー・塾の開催により、創業に対する興味と一定の知識の習得のみならず、引き続きフォローアップセミナーの開催が重要である。	・平成29年度は創業セミナー・塾を全6日間開催予定である。フォローアップセミナーも開催する。	適	
学校給食での地元産食材使用率	%	57.1	26	年度	65.0	毎月	63.1	97.1	-	順調	・食材提供期間の延長並びに食材種類の増など、生産者の努力と地元食材を利用した献立への工夫により、概ね目標に近い数値を得ることができた。 ・年度途中まで順調に推移していたが、野菜類が冷夏の影響と2・3月の品不足により、目標値の達成には至らなかった。	・今後も、生産者への地元産食材の安定提供に向けた取組を進めていただくと共に、地域食材の日(毎月19日)を設けるなど、献立への利用推進に努める。	適	
空き家・空き店舗を活用した創業者数	件	-	-	年度	2	毎月	0	0.0	-	努力を要する	・制度拡充の周知(既存店舗も対象とする)などを行ったものの、年度内の創業には至らなかった。 ・新たに1者に空き店舗活用事業補助金を交付したものの、開業準備に時間を要し、創業は平成29年度へ繰り越すこととなった。	・HPなどでの情報提供のほか商工会議所等と協力し、今後も空き店舗対策や創業者支援策を進めていく。	適	
女性のための就職支援事業を活用した女性の就業率	%	-	-	年度	30.0	年度末	28.6	95.3	-	順調	・女性のための就職支援セミナー参加者7名のうち、2名が就職した。 ・就業支援事業参加者の多くは、フルタイムでの就職が困難であるため、就職先における職種が限定されてしまう。	・平成29年度は女性のための就職支援セミナー&パソコン講座(募集定員20名)を開催する。	適	
シルバー人材センター会員数	人	753	26	年度	791	毎月	679	85.8	-	概ね順調	・働く意欲のある高齢者が就労により、生きがいの充実、健康の維持、地域社会への貢献を担うことができた。 ・定年延長や再雇用などの影響により、新規加入会員が減少傾向である。	・入会促進に向けた広報活動の強化、ハローワークなど関係機関と連携した会員募集等を実施する。	適	
地域ブランド調査観光意欲度全国ランキング	位	685	26	年度	400	毎年10月頃	639	62.6	-	努力を要する	・観光宣伝活動を行っているが観光意欲度向上に結び付いていない。 ・現状維持で推移している。	・地域の特性を生かした観光宣伝を行っていく必要がある。 ・既存観光施設のPR、及び活用方法を検討していく必要がある。	・農業体験や山岳観光(Sea to Summit, 高社山PRビデオ)等の特性を生かした観光事業を実施し、情報発信していく。	適
観光地利用者延べ人数	万人	52	26	年	54	毎年7月頃	51 (H27)	94.4	-	順調	・現状維持で推移している。	・新たな観光ルートパンフ(ドライブマップ、食をテーマにしたまち歩きマップ)を作成し、ホームページ等で情報発信していく。	適	
中野市版DMOの設立		-	-	年度	設立	-	-	-	-	効果が現れていない	・先進地を訪問し、研修会を実施した。 ・法人化に当たっては、観光商品開発及び自主財源の確保が課題である。	・観光協会、産業公社及び市による3者会議を開催し、有識者の講演を開催する。	適	

※1 H27～31累計 ※2 H27～28累計

【基本目標4】確かな暮らし実現戦略 ～安心安全・健康長寿のまちづくり～

■基本目標

項目・指標等	基準数値概要				H31 目標数値	測定可能 頻度	H28				課題または達成できない原因	今後の取組	指標の適否	
	単位	基準数値	基準年(年度)	年/年度			実績値	達成率	進捗率	進捗状況				成果
健康寿命	男性	歳	79.75	25	年度	平均寿命の 増加分を上回る健康 寿命の増加	毎年10月以降	80.22 (H26)	85.5	-	概ね順調	<ul style="list-style-type: none"> 新規事業として、運動習慣のきっかけづくりのため「ウォーキングバーチャルの旅」事業を実施したほか、「食と健康に関する共同啓発」を市内スーパーマーケットとともに実施した。 高血圧、糖尿病、脂質異常症の発症と重症化を予防する。 若年代からの減塩や栄養のバランスを考える食意識と運動習慣意識を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動習慣のきっかけづくりのほか、店舗との共同により栄養バランス等食意識を向上させるための啓発を行う。 塩分摂取推定量を知ってもらい、減塩を啓発するとともに学童期からの糖尿病予防に取り組む。 働き盛り世代へ出前健康講座のほか、各種イベントでミニ講座などを設けることで、健康づくり情報を提供する。 	適
	女性	歳	84.78	25	年度		毎年10月以降	84.15 (H26)	114.3	-	達成			
小さな拠点の形成		箇所	-	-	年度	1 ※3	年度末	-	-	-	効果が現れていない	<ul style="list-style-type: none"> 豊田地域内の有識者との懇談会を2回、先進地研修視察を1回実施した。 達成目標及び取組み方針について検討段階にあったため。 	<ul style="list-style-type: none"> 住民への聞き取り調査を実施する。 学習会、講演会等を開催する。 地域おこし協力隊による活動を活用する。 	適

※3 累計

平均寿命・健康寿命の状況

	平成25年	平成26年	差引
平均寿命(男性)	81.10	81.65	0.55
平均寿命(女性)	88.11	87.39	△ 0.72
健康寿命(男性)	79.75	80.22	0.47
健康寿命(女性)	84.78	84.15	△ 0.63

■重要業績評価指標 (KPI)

項目・指標等	基準数値概要				H31 目標数値	測定可能 頻度	H28				課題または達成できない原因	今後の取組	指標の適否
	単位	基準数値	基準年(年度)	年/年度			実績値	達成率	進捗率	進捗状況			
介護予防教室参加率 (介護予防教室延べ参加者数)	% (人)	75 (4,225)	29 (26)	年度	85 (5,800)	毎月	5,173	89.2	-	概ね順調	<ul style="list-style-type: none"> 参加者数の増加が図られ、心身機能の維持・改善にむけた介護予防が実施できた。 参加勧奨及び効果的な教室内容の検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の増加に向けた取組み及び効果的・効率的な介護予防を推進する。 	目標数値の変更
入所している障がい者の福祉施設から地域生活への移行者数	人	0	26	年度	6	毎月	3	50.0	50.0	順調	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度に1名の方が地域に移行できた。平成27年度から累計で3名の方が施設から地域に移行した。 グループホーム等の受け皿が少ない。また、グループホームを担うマンパワーの不足があるため進まない。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度北信圏域地域生活支援拠点等事業を委託し、地域移行・地域定着の増加を図りながら進めていく。H29はるかぜ(24時間サポート施設)開所。 	適
地域医療従事医師奨学資金貸付者で北信総合病院に勤務した医師数(※4)	人	3	制度開始からの延べ人数	年度	6	毎月	3	50.0	0.0	努力を要する	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度では、地域医療従事医師奨学資金貸付者で、前年度に医大を卒業する者や初期研修後に北信総合病院に戻る者がいなかったが、平成31年度には6人となる見込みである。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も北信総合病院と連携して事業を実施していく。 	適

項目・指標等	基準数値概要				H31 目標数値	測定可能 頻度	H28					課題または達成できない原因	今後の取組	指標の適否
	単位	基準数値	基準年(年度)	年/年度			実績値	達成率	進捗率	進捗状況	成果			
「中野市すぐメール」の登録数	件	-	-	年度	4,291	毎月	1,752	40.8	40.8	順調	・広報なかのへの掲載、消防団員へのチラシの配布など登録を呼びかけ、また排雪作業による通行止めの配信などにより、順調に登録件数が増加した。	・引き続き幅広く市民への周知を図る。 ・配信項目による配信元の細分化を図り、より迅速で正確な情報配信を行う。	適	
自主防災組織の組織率	%	39.5	26	年度	47.4	毎月	39.5	83.3	-	概ね順調	・組織に向けた住民説明会を7回開催し、組織に向けた住民意識の向上が図られた。 ・自主防災組織活動の支援に関する補助制度を創設した。	・地域により組織に向けた意識に温度差がある。	・引き続き講座等を通じて意識の向上を図るとともに、平成28年度から設けた補助制度について情報発信を行い、有効活用を促進する。 ・各種訓練において、組織としての活動を訓練項目に組み入れ、組織設立に向けた誘導を図る。	適
1日あたりふれあいバス利用者数	人	14	26	年度	31	毎月	24	77.5	-	努力を要する	・平成28年10月から長電バス間山線を「ふれあいバス間山線」として運行を開始したため、前年度より利用者数は増加した。	・「ふれあいバス豊田地域」の利用者が少ない。 ・「ふれあいバス」の運行を知らない住民をなくすため、更なるPR活動が必要である。	・バス停の新設、ダイヤ・ルートの見直しを行い、利便性・効率性の向上を図る。 ・各路線に愛称をつけ、市民への周知を図る。 ・「ふれあいバス豊田地域」は、区長会を通し利用促進のPRを行う。	適
新幹線飯山駅の1日平均乗車数	人	500	開業後1カ月の日平均	年度	1,300	要確認	504(H27)	38.8	-	努力を要する	・近隣市町村が連携し、生活基盤の整備、広域観光の促進等を推進するため、北信地域定住自立圏第二次共生ビジョンを策定した。	・新幹線駅の活用について、2次交通や観光利用だけでなく総合的に検討する必要がある。	・近隣市町村と連携し、生活基盤の整備、広域観光の促進等を推進する。	適
姉妹都市等との連携によるイベント数	回	6	26	年度	12	毎月	14	116.7	-	達成	・音楽姉妹都市提携50周年を記念し、さらに強固な関係を築く共同宣言を行った。 ・官民協働で都市交流の推進を図った。	・マンネリ化しないように、あらたな交流スタイルを追求する必要がある。	・引き続き、官民協働による市民交流の場を提供する。 ・学校新聞特派員事業について、新たに竹田市からの受け入れを行う。	適
中野市関連フェイスブック登録者数	件	879	26	年度	3,000	毎月	1,943	64.8	50.2	順調	・登録者が順調に増えている。 ・中野市に協力隊がいることや隊員の活動に関心を持ってもらえた。 ・イベント告知記事を見て参加してくれる方が多かった。	・豊田地域の良さ(古き良き原風景が残る自然、農産物、住んでる人たちの暮らしぶり、四季の移り変わり等)のPRが少なかった。	・旬の情報をスピーディーに発信し来訪者の増加に努める。 ・6月から地域おこし協力隊員が新隊員になったので、新しい隊員になったことを知ってもらうとともに、豊田地域の良さ(古き良き原風景が残る自然、農産物、住んでる人たちの暮らしぶり、四季の移り変わり等)を情報発信していく。	適

※4 制度開始から延べ人数

地方創生加速化交付金(H28事業)

交付対象事業の名称	事業名および概要	実績額 単位:円	重要業績評価指標(KPI)				目標値	実績値	今後の取組
			指標	基準値	単位	目標年月			
1 DMO構築による山岳高原観光推進事業	【「稼ぐ力」をつけるための情報発信強化】 地域資源を活かした旅行商品や訴求ツールを整備し情報発信する	6,031,000	地域ブランド調査観光意欲度全国ランキング	685	位	H32.3	400	639	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣市町村と広域的にアクティビティの環境整備を行う。 ・環境スポーツイベント「千曲川・高社山SEA TO SUMMIT」を開催する。 ・各種イベントで高社山PRビデオの紹介をする。
	【地域ブランディング確立に向けた事業展開】 観光資源であるアクティビティ環境を整備	89,000							
	【地域ブランドを活かすための受入コンテンツ整備】 信越自然郷を訪れるEV・PHEVユーザーの観光客が安心してエリア内を周遊観光できる環境を整備	4,881,600	観光地利用者延べ人数	52	万人	H32.3	54		
	【インバウンド誘致に向けたモデル事業】 外国人旅行者に対応するための通訳サービス導入	406,426							
2 「信州なかの」ブランドをいかした地域活性化事業	【姉妹都市等と連携した農産物販路拡大事業】 市内産農産物および加工品等を市内外に発信することを目的にギフトカタログを作成し、姉妹都市への配布等の実施	4,048,000	イベントの開催及び出展回数	13	回	H32.3	18	56	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者と事業者の連携・交流を推奨し、様々な情報を共有し、協働で中野市の産地・観光PRを行い、稼ぐ農業のシステム構築を目指す。
	【事業者マッチングによる新商品開発等】 市内産農産物を活用した新商品の開発支援、および新規事業(旅行商品開発等)の研究支援	8,200,000							
	【大規模消費者圏における活用事業者参加型事業】 生産者が直に商品紹介、販売等を行う「信州なかのフェアin横浜」の開催、全国で行われる各種イベントの出展支援	9,007,640	6次産業化事業計画認定件数	5	件	H32.3	7		
	【大規模見本市への出展】 スーパーマーケットトレードショー2017及びFOODEXJAPAN2017へ市内事業者と「信州なかの」として出展	7,076,160							
	【全国地域ブランド連携協議会加盟市町村との合同イベントの企画・開催】 全国地域ブランドサミットでのPR及び加盟市町村との新商品開発連携	3,122,200	新規就農者数	25	人	H27～H31 年度累計	120	40	<ul style="list-style-type: none"> ・各種就農相談会に参加し、中野市の農業についてPRする。
	【都市と農村交流事業】 各種都市交流事業の支援	848,000							

地方創生加速化交付金(H28事業)

	交付対象事業の名称	事業名および概要	実績額 単位:円	重要業績評価指標(KPI)				目標値	実績値	今後の取組
				指標	基準値	単位	目標年月			
3	「きのこの聖地」プロジェクト～地方におけるオンリーワン未来産業創出～	【歴史調査事業】 先達者からの聞き取りや当時の栽培機器等を調査し、産業文化としての記録保存を行うとともに、ミュージアム展示の方向性を検討	8,000,000	地域ブランド調査観光意欲度全国ランキング	685	位	H32.3	400	639	・前年度策定した「きのこミュージアム基本構想」を基に民間事業者主体の法人の設立を検討する。
		【「(仮称)きのこミュージアム」企画立案プロジェクト】 ミュージアムの企画を検討するための関係事業者等による研究会を立ち上げるとともに、運営会社立ち上げに向けての実現可能性調査	2,000,000	(仮称)きのこミュージアム入場者数	-	人	H33.3	100,000	-	
		【きのこスイーツ開発プロジェクト】 市内産きのこを活用したスイーツ開発の支援	3,000,000	(仮称)きのこミュージアムにおける雇用創出	-	人	H32.4	50	-	

地方創生推進交付金(H28事業)

交付対象事業の名称	事業の概要	実績額 単位:円	重要業績評価指標 (KPI)				目標値	実績値	今後の取組
			指標	基準値	単位	目標年月			
1 稼ぐ農業の実現に向けた「信州なかの」ブランド構築プロジェクト	【地域ブランドイメージ構築事業】 中野市食の大使プロジェクト(事業主体:中野市食の大使就任を祝う会実行委員会) ・著名人に「中野市食の大使」を委嘱し、市内産農産物等の多方面へのPRを図る。	3,000,000	農業所得	3,403	千円	H33.3	3,453	3,620	・販売促進、認知度向上を図る。
			新規就農者数	15	人	H28~H32 年度累計	140	25	・各種就農相談会に参加し、中野市の農業についてPRする。
			地域ブランド調査認知度 全国ランキング	801	位	H33.3	375	807	・著名人を活用し、全国レベルでの産地・観光PRを実施する。
2 水清きふるさとの水質保全事業	①【浄化槽設置促進事業】 ※環境省、所管 ②【し尿等投入施設整備事業】 ※国土交通省、所管 唱歌「故郷」の発祥地であり、「山青き、水清き故郷」の当市の自然環境を保全し、「悠久の故郷」の地として後世に残し伝える事を目指し、浄化槽の整備を中心に生活排水等の処理施設を一体的に整備することにより、生活環境の改善と公共用水域の浄化を通じて、定住の促進を図る。	①441,000	汚水処理人口普及率の向上	95.8	%	H32.3	96.1	96.2	①汚水処理人口普及率を更に向上させるため、浄化槽の設置促進を図る。
			②なし	し尿処理経費の削減	75,100	千円	H32.3	15,000	60,693

地方創生推進交付金(H29事業)

交付対象事業の名称	事業の概要	交付額 単位:円	重要業績評価指標(KPI)				目標値
			指標	基準値	単位	目標年月	
1 稼ぐ農業の実現に向けた「信州なかの」ブランド構築プロジェクト	農産物生産者、加工業者、販売業者、飲食店、各種団体(JA等)などで組織している「中野市産地・観光PR用シンボルマーク事業者組織」(以下、シンボルマーク事業者)において事業者の連携による新商品開発、大規模見本市への出展支援等による販路開拓などにより各事業者の営業力の底上げを図るほか、「信州なかの」製品の付加価値を高めるため、情報発信を継続的かつ全国的に行うことによりブランド定着の素地をつくる。 また、栽培きのこの産業化に先進的に取り組んできた「きのこの聖地」としてのアイデンティティを確立し、全国への発信力を高める拠点施設として民間資本による「(仮称)きのこミュージアム」の設立を支援し、雇用創出を図るとともに、「信州なかの」のブランド定着の起爆剤とする。	22,897,000	農業所得	3,403	千円	H33.3	3,453
			新規就農者数	15	人	H28~H32 年度累計	140
			地域ブランド調査認知度全国ランキング	801	位	H33.3	375
2 信越自然郷におけるDMO構築推進事業	信越自然郷エリアが、世界水準の滞在型観光地となるべく、「信越9市町村広域観光連携会議」と地域連携DMOである「(一社)信州いいやま観光局」が一体、連携をし、次の事業を実施する。 ①【DMO構築及び組織強化】 DMO組織の強化、構築を行う。 ②【保養・獲得型旅行商品開発及びプロモーション】 エリアの価値を体験できるプログラム造成、販売及びエリアの認知度、知名度を上げるためPRを実施する。 ③【地域ブランドを活かすための受入コンテンツ整備】 アウトドアアクティビティを楽しめる環境の整備を行う。	206,000	観光消費額	441	億円	H32.3	466
			延宿泊数	564	万人	H32.3	597
			飯山駅観光案内所(ワンストップ)窓口利用者数	65,456	人	H32.3	69,470
3 水清きふるさとの水質保全事業	①【浄化槽設置促進事業】 合併処理浄化槽の設置促進を図る。 ②【し尿等投入施設整備事業】 ※国土交通省、所管 中野浄化管理センター敷地内にし尿等投入施設を整備し、H31.4月稼働を目指す。	①交付金 要望なし	汚水処理人口普及率の向上	95.8	%	H32.3	96.1
		②176,500,000	し尿処理経費の削減	75,100	千円	H32.3	15,000

中野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価について

政策情報課

標記戦略は、達成率と進捗率により評価する。

なお、進捗率による判定が相応しくない指標（毎年0から計上を開始する指標等）は達成率のみにより評価する。

○達成率＝実績値／目標値

○進捗率＝（実績値－基準値）／（目標値－基準値）

【進捗状況判定基準（H28）】

評価	進捗率あり	進捗率なし
達成	達成率が100%以上	
順調	進捗率が40%以上	達成率が100%未満90%以上
概ね順調	進捗率が32%以上40%未満	達成率が90%未満80%以上
効果が現れていない	基準数値が0かつ実績値が0の指標	
努力を要する	進捗率が32%未満	達成率が80%未満
実績値なし	実績値が把握できない場合	

進捗率の判定基準は、比例的に進捗した場合の平成31年度の進捗見込みによる。

- ・100%以上となる見込み：順調
- ・80%以上100%未満となる見込み：概ね順調
- ・80%未満となる見込み：努力を要する

よって進捗率の判定は下図のとおり

	H27	H28	H29	H30	H31
順調	20%以上	40%以上	60%以上	80%以上	100%以上
概ね順調	16%以上	32%以上	48%以上	64%以上	80%以上
努力を要する	16%未満	32%未満	48%未満	64%未満	80%未満